

### ホームカミングデーに参加して

坂本 泰一（平成2年物工卒）

私は、ホームカミングデー (HCD) に参加して、一つだけ残念なことがあります。それは、同世代や若い人が少ないことです。おそらく、同世代や若い人は、仕事が忙しかったり、家族サービスが忙しかったり、HCDに参加する時間などはないという人がいるでしょう。また、知っている人が参加していないから、参加しづらいと思っている人もいます。そのように思っている人は、間違っています。HCDは、家族で参加できるイベントです。親子で参加するスポーツイベントがあります。残念ながら私自身は、まだ子供と参加していませんが、スポーツイベントでは元オリンピックの代表選手のコーチによるアドバイスも受けられたようです。スポーツイベントに参加しなくても、「お父さん（お母さん）は、ここで〇〇の勉強をしたんだよ。大きくなったら、ここで勉強できるように、ちゃんと勉強しなさいよ」などと子供に言いながら、国大の美しいキャンパスを見せてあげるだけでもよいかもしれません。

家族で参加しなくても、HCDはとても楽しめます。横浜国大の先輩、OB、OGや先生方の貴重な講演を聞くことができます。私は、第2回と第3回のHCDに実行委員として参加しながら、少しだけ講演を聞かせていただきました。第2回HCDでは、3会場へのハイビジョン同時配信という初めての試みである実行委員の仕事があったため、じっくり講演を聞くことはできませんでしたが、スクリーンに映し出された宮脇名誉教授は、「横浜国大の森を世界に」というタイトルで、昔と変わらずに、熱く語っておられました。私も宮脇先生のようにエネルギーで魅力ある先生になりたいと思ったのを覚えています。今年の第3回HCDでは、実行委員としてビデオカメラの設置をしていたため、楽しみにしていた藤嶋先生の御講演を聞くことができなかったのですが、丸尾先生の「光で操るマイクロマシン」を聞くことができました。丸尾先生は、レーザー光で動くマイクロポンプをどのように造るのか、非常にわかりやすく説明してくださり、マイクロポンプの動画は見る人に感動を与えていました。横浜国大の研究レベルの高さがよくわかりました。

懇親会では、とても楽しい時間を過ごせます。楽しい音楽と催しがあり、そして美味しい食事とお酒。第2回HCDは、国大についての〇×クイズで大盛り上がりでした。途中で間違えてしまって、賞品をもらえなかったのが残念でなりません。第3回HCDでは、混声合唱団による「みはるかす」、そして、民謡研究会による歌と踊りもあり、懇親会会場は熱気に包まれました。そして、第1回HCDから出演しているというDixie Show CaseのJazzの演奏も会場を盛り上げてくれます。

OB・OGが自由に参加できるイベントなので、まだ参加されたことがない方、是非、来年のHCDに参加することをお勧めします。

最後に、実行委員として参加したHCDについて書かせていただきます。私は、国大化学会でお世話になっている古賀先輩に誘われ、第2回と第3回のホームカミングデー (HCD) に実行委員として参加しました。古賀先輩は、第1回から第3回までHCDの電子録画グループでリーダーをされています。そのグループの一員として誘っていただいたのですが、最初はお荷物にならないかととても心配でした。工学部卒でありながら、私はハイテクに疎かったからです。グループの打ち合わせでは、私にはわからない専門用語が飛び交っていましたが、実働部隊として講演のハイビジョン配信やビデオ録画をしました。また、第2回HCDの実行委員会では、本来の私の仕事とバッティングしない日に委員会が開かれることが多かったため、常盤台のキャンパスに足を運ぶ機会が増えました。国大に来て、緑の中にたたずむ白い講義棟を見るたびに、帰ってきたな～と思いました。横浜国大に来ると、普段の仕事の疲れも癒されて、元気になって帰宅することになりました。

また、HCDの実行委員の経験を通して、たくさんのことを教えていただきました。まず、第2回HCD実行委員長の樋口会長、古賀先輩をはじめとする先輩方のエネルギーには、驚かされました。度重なるリーダー会議やグループ会議では、HCDをよりよいものにするために、多くの議論が交わされました。また、HCD当日に向けての綿密な計画と実

行によって、着々と準備が進んでいきました。(第3回HCDでは、本来の仕事が忙しかったため、HCD当日にビデオ撮影をするだけで、皆様にご迷惑をお掛けしたことをお詫びします。)会議の後には、食事に連れて行っていただいたこともありました。ここでは、HCDのことだけではなく、横浜国大のことやご自身の若かった頃について熱く話をされました。先輩方の話を聞いていると、NHKの番組「プロジェクトX」を見ているかのように、挑戦者だった熱い想いが伝わってくるのです。

世の中では、団塊の世代の定年退職によって、若い世代へ技能が継承されないことが懸念されています。先輩方の話を聞くと、先輩方はいろいろなことを若い世代に伝えたいのだと思います。私たちは、その熱い想いを吸収して、次の世代のためにも、これからの日本を良くしていかななくてはならないと思います。私は、一つ上の先輩の禅先輩に同窓会活動に誘われて参加していくうちに、同窓会活動の大事さを知り、楽しさを知るようになりました。先輩方に皆さんに感謝しています。

## 第3回ホームカミングデーにおいていくつか展示会が催されたので紹介します

横山 幸男(昭和49年電化卒)  
禅 知明(平成元年物工卒)

第3回ホームカミングデーは去る2008年11月10日(土)に、1000名を越える参加者のもと盛大に執り行われました。藤嶋昭氏(昭和41年電化卒、本学名誉博士)にはお忙しい中「天寿を全うするた

めの科学技術」と題して基調講演をしてくださいました。

講演会場となった教育文化ホールロビースペースでは、「環境情報の研究フロンティア」と題して環



写真1 環境情報展示ブース



写真3 COE 関連の紹介



写真2 環境情報研究院の紹介



写真4 国大秘蔵文献展示



写真5 鈴木煙州先生書（複製）



写真7 旧工学部航空写真（S41頃）



写真6 懐かしむ工学部写真展

境情報研究院のポスター展示を行いました。

センター受付となった中央図書館ホールでは「国大秘蔵文献展示」も催され、工学部からは工学部長

國分泰雄教授が中心となり選んだ貴重な資料が提供されました（写真4）。その中には鈴木煙州先生直筆の書（複製）や印もありました（写真5）。この展示の中には弘明寺キャンパス本館前で撮影された電気化学科卒業生の学年写真も数枚含まれておりました。また、2007年度に続き、物質工学科の禪知明特別研究教員（国大化学会副会長）が工学部の各同窓会事務局を尋ね、卒業生にも声をかけていただいて収集した写真を模造紙大7枚にまとめた「懐かしむ工学部写真展」もあわせて展示されました（写真6）。その中に、昭和41年頃の弘明寺キャンパスを空から俯瞰したパネル（写真7）もあり来場者が足をとめ見入っていました。

## 藤嶋昭氏がメイン講演

教育文化ホールにおいて、藤嶋昭氏（昭和41年電化卒、(財)神奈川科学技術アカデミー理事長）が「天寿を全うするための科学技術」と題してメイン講演を行いました。藤嶋氏は光触媒の研究でノーベル化学賞候補にも挙げられており、満員の参加者が熱心に聴講しました。また、この講演は中央図書館のメディアホールにおいてもハイビジョン配信が行われ、大変盛況でした。

